

# ふるさと再発見

第12回

Re:discovery Omihachiman

## 安土城下町の二面性 織田信長公の強さと繊細さ



織山からみた安土城下町

町の始まりともいえる画期的なことでした。さらに、長方形の街区、短冊形の地割とすることで、整然とした大きな都市を建設する意図もうかがえます。

安土城下町の特徴は、画期的に新しいところと、中世からの古いスタイルを脱却できないところにあります。画期的な点として、安土城下町の整備に際し天正5年(1577年)「安土山下町中掟書」を發布し、この中で、特に安土城下町全体をいわゆる「楽市」と表現する条文があることです。これは、経済の流通として画期的なものでした。また、それまでの城下町は、武家の集住する町と、商業者などの住民が居住する町とがまったく離れた位置にありましたが、これらの町が一緒の場所にできたことも、近世的城下

このように、画期的な理想都市を目指した一方で、

旧態依然的な一面もあります。例えば、新たな都市区画とするために、以前からあった町や村などの集落を移転させることはしなかったとされています。実は、安土城下町が建設される以前の周辺一体は、豊浦荘と佐々木荘という2つの荘園がありました。豊浦荘は、主に奈良薬師寺領で桑實寺がこれを管理し、港を持つた村々がありました。一方の佐々木荘は、六角氏と関わりの深い、沙沙貴神社や慈恩寺、港町の常楽寺がありました。安土城下町には、これらの利用できる旧集落の区画が残されるケースが見え、それらの住民は、「掟書」により保護・保障されたことがわかります。その

ため、整然とした区画ではなく、現在の何種類か方向の違う地割となつてるところがあります。これは旧住民への配慮ともれませんが、同時に強行にできなかった、信長公の一面もあります。信長公は、強行に革新的なことをする人物とされていますが、安土城下町からみると、中世的な世界に引きずられていたところもうかがえます。



安土山下町中掟書

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などで配布しているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

### 人口と世帯

令和元年11月1日現在  
( )は前月比

総数 82,144人(+15)  
男 40,371人(+11)  
女 41,773人(+4)  
世帯 33,916世帯(+23)

※外国人住民(40カ国・地域/1,518人)を含みます。

Facebook



YouTube



マチイロ



マイ広報紙



テレビ画面で広報紙

びわ湖放送に  
チャンネルを合わせ



リモコンの  
dボタンを押し!

広報おうみはちまん

令和元年12月号

編集・発行/近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.jp

WEB http://www.city.omihachiman.shiga.jp



この広報誌に掲載された情報は、個人情報保護法に基づき、厳格に管理されています。